

平成21年度京都府立北桑田高等学校学校経営計画(スクールマネジメントプラン)

学校経営方針(中期目標)	昨年度の成果と課題	
1 学力の充実向上	1 学力充実向上 【成果】 ・シラバスの充実と定着ができた。 ・土曜補習を含め各種補習を計画的に実施することができた。 【課題】 ・成績不振生徒への指導をより効果的にする工夫。 ・授業改善の取り組み ・家庭学習の定着	3 地域から信頼され、地域の誇りと期待を担う生徒の育成。 【成果】 ・全国制覇を成し遂げる部活動(自転車競技部) ・旧北桑田郡小・中・高の連携の実施 【課題】 ・高い目的意識を持つ生徒の募集 ・中学生に直接説明する機会を増やす。 ・懇談会への参加者を増やす。
2 希望進路の実現	2 個々の生徒の潜在能力を引き出す3年間を見通した進路指導の強化 【成果】 ・進路指導部と各学年の連携により、進路指導目標及び計画にそって具体的に進路指導を行った。 ・府立実力テストの分析をし、結果の学力実態を共有する研修会が定着できた。 【課題】 ・系統的な進路指導計画の改善 ・学力実態把握のための分析会の充実	
3 地域から信頼され、地域の誇りとなる生徒の育成		

平成21年度 学校経営の重点(短期目標)

評価領域	重点目標(短期目標)	具体的方策	中間評価	評価	総合評価	成果と課題
組織・運営	活力ある学校作りと運営	部長会・各分掌・各会議の情報のより一層の共有化を図る。	C	B	B	各会議の場での情報の共有は実施できた。
		会議の目標を明確にし取り組みの焦点化と効率化を図る。	C	B		学校の将来像を提示するまでに至らなかった。
教育課程	自己発現を促す教育課程の編成	柔軟な教育システムに係る実践研究を行う。	B	B	C	先進校視察等の情報収集を行った。
		柔軟な教育システムにかかる実践研究の成果を、共有し学校の将来像の具体化を図る。	C	C		学校の将来像の具体化及び共有が課題。
学習指導	質の高い学力の育成	新学習指導要領の周知を図り、対応できる体制作りを行う。	C	B	B	夏の伝達講習をうけ、教科主任会で各教科の意見交流を行った。
		学科・類・類型の目標に応じた教育課程の編成を研究・改善を行う。	B	C		新指導要領を念頭に置いた教育課程の研究。
生活指導	個に応じた指導による学力の向上	“わかる”こと通して学びの姿勢をつけさせる授業展開を行う。	C	B	B	図書館の利用を促進する、授業やイベントを実施できた。
		家庭学習の定着を図り、自学自習の学習態度を育成する。	C	C		留年は1名であった。学びの姿勢を付ける授業のあり方を研究する。
生活指導	社会の一員としての自覚を促す指導	図書館の利用しやすい環境を整え、図書館利用を推進する。	B	B	B	家庭学習の定着を図る具体的方策と教員の体制作り。
		授業担当者会議等の開催で、個別指導の基礎情報を共有する。	B	B		担任発信で気になる生徒の情報交流が行えた。
生活指導	生命・人権を基盤とした正しい判断力と実践力の育成	定期考査、実力テスト等の分析を行い、教科指導の改善を図る。	C	C	B	分析結果を教科指導に生かす流れをシステム化する。
		人権学習だけでなく行事・特別活動等の指導の中で、生命・人権を守る重要性を理解させる。	C	A		部活動をおとして道徳指導をおこなった。
生活指導	基本的な生活習慣を確立させ、生涯を通じての自らの心身の健康を適切に管理し、改善する能力を養う。	教職員研修により、教職員の人権教育の力量を高める。	C	C	A	「人権」を中心に据えた教職員研修を実施する。
		各学年、各分掌との連携により生徒の課題をふまえた保健学習を充実する。	B	A		教育相談会議、学校保健会議を定期的に行えた。
進路指導	自己発現による進路選択能力の涵養	教育相談会議や学校保健会議等を充実させる。	A	A	B	特別活動において生徒の自主的活動を促す活動に取り組めた。
		研修旅行・校外での行事において、学校以外の人達との対応を学ばせる。	B	B		生徒の自主性を促す活動の充実。
進路指導	系統的な進路指導の充実	学園祭を中心とした生徒会行事の発展充実を図る。	B	B	B	各学年の進路指導計画が共有できなかった。
		各学年の進路指導計画の具体的実践と改善。	C	B		職員対象の進路研修において、生徒の現状を共有できた。
信頼を高める学校作り	開かれた学校作りの推進	教職員の進路研修により、最新の進路情報の共有化を図り、一致協力した進路指導を牽引する。	B	B	B	進路学習、進路説明会を実施、生徒に最新情報を提供した。
		進路学習、進路説明会等により、最適な進路情報を生徒に提供する。	B	B		検定、資格取得を勧めることで、資格取得につながった。
信頼を高める学校作り	教員の資質向上	資格試験・検定試験等の取得を勧めることとおして、自らのスキルアップ意識をもたせる。	B	B	B	部活動を中心に地域の催しに参加した。
		地域と学校のつながりをより一層高める。	B	B		地域のPTAの連携を図る取り組みができた。
次年度への改善の方向性	・柔軟な教育課程の実践研究を利用し、学校の近い将来像を具体化し、遠い将来像のイメージを校内で共有し、外部にも説明を行う。 ・部活動の成績のみならず、あらゆる学力層の生徒に対応した教育の成果等を、外部に向けて発信する。 ・生徒の学習時間の実態把握を行い、家庭学習時間を確保することで、分ける授業の促進を図る。 ・「人権」教育と「道徳」教育の異同を考慮しながら、道徳教育の体系化を図る。	中学校との授業研究活動、小中学校生との高校生の交流活動等地域の学校との連携を深める。	C	B	B	学校便りの配布先が限定的であった。
		PTAだより、学校だより等の情報の発信を充実させる。	B	A		留学生は順調に学校生活を送っている。
次年度への改善の方向性	・柔軟な教育課程の実践研究を利用し、学校の近い将来像を具体化し、遠い将来像のイメージを校内で共有し、外部にも説明を行う。 ・部活動の成績のみならず、あらゆる学力層の生徒に対応した教育の成果等を、外部に向けて発信する。 ・生徒の学習時間の実態把握を行い、家庭学習時間を確保することで、分ける授業の促進を図る。 ・「人権」教育と「道徳」教育の異同を考慮しながら、道徳教育の体系化を図る。	関係機関との連携やホストファミリーとの綿密な連携を図り、留学生の成長を援助する。	B	B	B	公開授業を実施した。地域に向けても解放したが、参加者が少なかった。
		研究授業・公開授業、中学校との授業交流を実施し、授業改善を図る。	B	B		教育に関する情報を職員会議等で共有した。
次年度への改善の方向性	・柔軟な教育課程の実践研究を利用し、学校の近い将来像を具体化し、遠い将来像のイメージを校内で共有し、外部にも説明を行う。 ・部活動の成績のみならず、あらゆる学力層の生徒に対応した教育の成果等を、外部に向けて発信する。 ・生徒の学習時間の実態把握を行い、家庭学習時間を確保することで、分ける授業の促進を図る。 ・「人権」教育と「道徳」教育の異同を考慮しながら、道徳教育の体系化を図る。	研修会の実施で、学校内外の教育に関わる情報を共有する。	B	B	B	